



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8114
長崎市橋口町 1-1
長崎大司教館内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-842-4460
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田 良 秋
印刷所
株式会社 インテックス

聖フランシスコ年

教皇庁内教院は 1 月 10 日付で、
教皇レオ 14 世が 2026 年 1 月 10
日から 27 年 1 月 10 日までをアッシ
ジの聖フランシスコ没後 800 年
を記念する「聖フランシスコ年」
とすることを発表し、同期間に全
免償を与える教令を公布した。

日本二十六聖人殉教祭

神が望まれるすべてを受け入れて

西坂の丘での記念ミサ

2 月 1 日 (日) 14 時から長崎
大司教区主催 長崎南地区評議
会担当による日本二十六聖人殉
教記念ミサが西坂公園で行われ、
国内外の各地から巡礼し集まっ
た約 1200 人が祈りをささげ
た。ミサは中村倫明大司教が主
司式を、高見三明名譽大司教と司
祭団約 40 人が共同司式を務め、殉
教者を思い、皆とともに祈った。

わたることを叶わなかったある一
人の人物を通して、殉教するこ
とはどういうことか、皆さんとこ
ろに分ち合ってみようと思
います」と続け、ヒエロニモ・デ・
ヘスというフランシスコ会の
司祭について語った。

日本では布教に身をささげてい
たヒエロニモ神父は、26 聖人の
一人、ペドロ・バプチスタ神父
の目下の同僚だった。バプチス
タ神父たちが京都で捕らえられ
たことを知ったヒエロニモ神父
は、神父たちを救うために尽力
するべきか、自分も殉教の栄冠

を受けるために行動を共にする
べきか、迷った。そして、牢獄に
いる上長のバプチスタ神父に手
紙を書き、指示を仰いだ。バプ
チスタ神父の返事は、「自分た
ちを救出するようなことはせ
ず、殉教の恵みを願うてくれる
ように、また、残された信徒たち
と教会のために身を隠して生き
延びるように、それが上長とし
ての命令であり、神の思召し
である」というものだった。

2 月 5 日の祝日

日本二十六聖人殉教者の祝日
である 2 月 5 日 (木) には、長
崎南地区司祭団主催による連続
ミサとゆるしの秘跡が西坂・聖
フィリッポ教会で行われ、朝 9
時から晩にかけて 2 時間おきに
計 6 回のミサがささげられ、多
くの人々が西坂の地を訪れた。

そして私たちが、神が望まれ
るすべてを喜んで受け入れるこ
と、世の終わりまでいつも私た
ちと共にいてくださるイエスを
信頼し最後まで付き従うこと
ができたとき、「私たちも本当
の意味で神様から選ばれた者
信仰の真の殉教者になれること
を日本二十六聖人とヒエロニモ
神父は、私たちに教えてくれて
います」と語り、聖母マリアの取
り次ぎを願ひ祈るよう招いた。



中野里師は、バプチスタ神父
がヒエロニモ神父に手紙で贈っ
た言葉、「聖性は、自分の氣に入
るように神に仕えることにある
のではなく、神が私たちに望ま
れるすべてを喜んで受け入れる
ことにある」というこの言葉に
「殉教」の本質が示されている
ように思われる、と説いた。



「巡礼友の会」の総会

2 月 1 日 (日) の殉教記念ミ
サの後には、日本二十六聖人記
念館館長のデ・ルカ・レンゾ師
が代表を務め、中村倫明大司教
が顧問を務める「日本二十六聖
人『長崎への道』巡礼友の会」(愛
称「ナガミチ」)の総会も記念館
で行われた。友の会は、毎年こ
ミサの後に交流会を、2 年に一
度は総会を開催している。現在
会員数は 89 人。京都から長崎ま
でを完歩した人は延べ 232 人。

核兵器禁止条約発効から 5 年

日米 4 教区のパートナーシップが声明発表

核兵器の開発、保有、使用
などを禁止する「核兵器禁
止条約」が今年 1 月 22 日、
発効から 5 年を迎えた。こ
れにあたり、米国・ニューメ
キシコ州サンタフェ教区、
ワシントン州シアトル教
区、広島教区、長崎教区など
で構成する「核兵器のない
世界のためのパートナー
シップ」(Partnership For
A World Without Nuclear
Weapons) は同日付で声明
を発表。公式ウェブサイト
(下記 QR コード参照) を
通して、同条約のさらなる
批准拡大を願うとともに、
世界の指導者に対し、核軍
縮に向けた測定可能な進展を
示すよう要請するという趣旨
の内容を伝えた。

同パートナーシップが目的
としているのは、「核兵器禁
止条約」の批准拡大を後押し
し、核兵器の開発、実験、生産
、輸送、保有、使用または使用の
威嚇による、あらゆる破壊的
で非人道的な被害と脅威か
ら、すべてのいのちと環境を
守る活動を推進強化していく
ため、カトリック教会の諸団
体の自主的・国際的なネット
ワークを構築し、加盟する諸
団体相互の情報共有、交流、協
力を促すこと(同ウェブサイ
トから)。パートナーシップ

構築への呼びかけはカトリッ
ク教会の諸団体を対象として
いるが、カトリック教会以外
の諸団体も入会可能である。
先述の声明文の最後は、「私
たちの親しい同僚であるワシ
ントン DC のロバート・マケ
ロイ枢機卿が昨年 8 月、原爆
投下 80 周年に際し広島で宣言
したように、「私たちは核拡
散と危険を冒す世界に生きる
ことを拒みます。世界の核兵
器が破壊されるまで、私たち
は抵抗し、組織を整え、折り
決して諦めません」との言
葉で結ばれ、4 教
区 5 司教の名前が
記されている。

主に望みをおく人

イザヤ 40・31

今年 2026 年に司祭叙階の節目(ダイヤモンド祝・60
周年・金祝・50 周年・銀祝・25 周年)を迎える司祭は長崎教
区内に 7 人。現在、教区外におられ、記念の節目を迎える長
崎にゆかりのある司祭のためにもどうぞお祈りください。

↓ 2 面へ続く

ダイヤモンド祝

感謝の念をもって

これからの日々を

ヨゼフ 萩原 劭 神父



司祭叙階以来、60 年の歳月が
経過しました。皆様様に支えら
れて今日の日を迎えることがで
きました。心から感謝申し上げ
ます。「ありがとうございまし
た!」「永い歳月が流れた」と
感じています。
皆様様に支えられながら今日
の日を迎えることができたこと
を深く、深く心に留めておりま
す。

す。ご恩返しができないこと
を反省しております。感謝の
念をもって、これからの日々
を過ごそうと思っております。

皆様様の上に神様の豊かな
祝福をお祈り申し上げます。

略歴 1937 年 3 月 24 日
平戸市生まれ。田平教会出身。
66 年 1 月 6 日ローマ・聖ペト
ロ大聖堂で司祭叙階。同年出
津教会助任、68 年水主町主任、
71 年 4 月大浦助任を務める。
同年 9 月滑石、73 年八幡町、79
年俵町、88 年鯛之浦、96 年三浦
町、99 年長与、2007 年香
焼の各教会で主任。20 年 3 月
22 日付引退後はお告げのマリ
ア修道会本部修道院司祭館
へ。25 年 10 月から大司教館在
住。

人事異動・任命

▼教区(4 月 19 日着任)

川内 和則師 香焼主任 (平戸主任)
下山 盛朗師 植松主任 (出津主任)
福島 光明師 平戸主任 (植松主任)
本田 靖彦師 水ノ浦主任 (黒崎主任)
熊谷 裕司師 仲知主任 (水ノ浦主任)
下原 和希師 黒崎主任 (仲知主任)
金 桐旭師 出津主任 (香焼主任)

教区生涯養成委員会主催 2026 年度 カトリック講座のご案内

テーマ: 希望の巡礼者の歩みは続く ~聖年のふり返りとこれから~
土曜日 午前 10 時 30 分 ~ 11 時 30 分

- ◆日 程 4/11、25、5/9、23、6/6、20、7/4、18、8/1、9/5
- ◆場 所 大司教館会議室(定員あり)または オンライン受講(Zoom)
- ◆受講料 全 10 回分 5,000 円 *聴講可能 1 回 1,000 円
※受講料の支払方法は振り込みのみです。
- ◆申込先 カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会
Fax 095-842-4460 cnsy.kouza@gmail.com
- ◆申し込みは 3 月 31 日(火) *途中申し込み・聴講は随時受け付けます。



詳細につきましては各教会でのお知らせ、または本紙 2 月号をご確認ください。

ほしかげ

東京の JR 中央線、四ツ谷
駅からすぐの聖イグナチ
オ教会に毎朝通った時期
がある。不熱心だった信
仰生活を補うかのよう
に、また大神学校入試に
通りますようにと祈って
いた。今と違って 20 年前
の平日の「ミサ」は朝 6 時
から連続して 3 回もあ
り、忙しい通勤中に少しの
時間を割愛したサラリー
マンの方も多かったよう
に記憶している。「ミサ
は、主聖堂ではなくサビエ
ル小聖堂で行われていた
▼聖堂は全体的には薄暗
く、優しい光が入ってくる
窓の外と内を繋ぐ池が設
置されており、そこに置
かれた洗礼盤から常に静
かに水が湧き出る。朝の
ごミサの時間だけでなく、
時間があるときには昼間
にもしばしば訪れること
があった。常に祈る人が
何人かいるので邪魔をし
ないようにそっと入って
行く。しかし、木の床は
軋む音を立て、洗礼盤か
らの流れる水の音に波紋
を広げてしまう。それで
も勇気を出して、足を人
れ席に座る。節度ある光
と水の音に、心は静まり、
この上ない至福の時間が
過ぎていく。都心のイエ
ズ会の聖イグナチオ教
会は、そのような場所
で開かれた神様との親密な
空間だった▼ここ最近日
本では、オーバートーリズ
ムが大きな問題になって
いる。教会にも観光客や
修学旅行生、巡礼団が訪
れてくる。教会は守りの
姿勢ではなく、もっと開か
れた場所であることを願
う。なぜなら、私たちは
明日の観光客であり、巡
礼者であるから。(衡)



2月2日の主の奉献の祝日に合わせて、1月31日(土) 中村倫明大司教様をお迎えし、「奉献生活者とともにささげるミサ」(主催・長崎でとも

奉献生活者とともにささげるミサ

感謝の祈りを心一つに

「召命が少ないからこそ、内にこもるより、もつと出かけていく必要があるのではないか」との励ましのお言葉をいただき、誓願の恵みを生きる決意を新たにし、奉献生活へと招いてくださる神への感謝の祈りを心一つにささげました。

中村大司教様から

に歩む奉献生活者たちを城山教会聖堂でお祝いしました。奉献生活者信徒の皆さん合わせて160人ほどが集まり、和やかに奉献生活の喜びを分かち合いました。

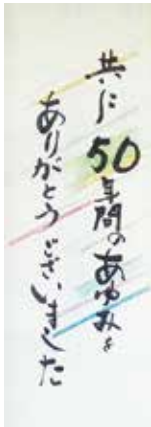
ミサ後の茶話会では、お告げのマリア修道会のシスター方が作ってくださったふくれ饅頭を皆でいただきながら、それぞれの会の紹介を聴き、霊も身体も心も満たされました。

日本の信徒発見の聖母記念ミサ

日時 3月17日(火) 19時～
場所 カトリック大浦天主堂
主催 カトリック長崎大司教区
担当 長崎南地区評議会

当日はライブ配信を予定しています

▶ピエタの店頭に掲げられていた言葉①とお店の外観②



1975年長崎での宣教のために招かれ、2025年に50周年を迎えた年に、長崎典礼センター「ピエタ」を閉じることになり、皆様には多大なご迷惑をおかけし、大変申し訳なく思っております。しかしながらこれまで

長崎典礼センターを閉じるにあたって

師イエズス修道女会長長崎修道院(長崎市上野町)は、設立以来長年にわたって長崎で宣教活動を行ってこられたが、今年3月を以て閉鎖する。同会が営んでこられた典礼センター「ピエタ」も昨年12月末日をもってその務めを終えられ、このときにあたって修道院からお言葉を寄せていただいた。長崎の地で教区と人々に寄り添ってくださった同会とシスターの皆様へ感謝をささげたい。

で枢機卿様、大司教様司祭方、修道者の皆様、そして多くの信徒の皆様へ、励ましと祈り、ご協力、ご支援をいただいたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

私たちの修道会は、ご聖体を顕し聖体礼拝を続けながら、とりなしの使命、世界の救いのために祈り続けるよう教会から託された使命をもっています。これからも皆様お一人おひとりの必要のため、ご意向のために祈りしてまいります。

2026年も神様の恵みと祝福が豊かにありますように。信仰の旅路を常に共に歩んでくださる主、イエス・キリストに希望をおいて歩んでまいります。ありがとうございます。

師イエズス修道女会長 長崎修道院

2025年長崎大司教区 平和作文コンクール受賞作品 《優秀賞―中学生》《特別賞》

25年に一度の通常聖年と被爆・終戦80年を迎えた2025年、長崎大司教区は教区所属のカトリック信徒および求道者の小中高生を対象に「平和作文コンクール」を実施。全140作品の中から、最優秀賞3、優秀賞7、特別賞1の合計11作品が選ばれた。今号は、コンクールに参加したすべての皆さまに感謝し受賞作品を全文掲載する3回目(最終回)。優秀賞に選ばれた中学生の2作品と特別賞1作品を紹介する。

*掲載にあたっては原文のままを基本としますが、改行や文字表記の統一など一部編集をさせていただいております。ご了承ください。(広報)

優秀賞

平和への決意

水主町教会 中学2年 マリア 中島ひなた

私は、教会に行くとき静かで、心が落ち着きます。ろうそくの光やオルガンから聞こえてくる音に包まれて不安などが少しずつ消えていくような気がします。神父様の話を聞いていると「平和ってなんだろう」と考えることがあります。

今の世界では、戦争や争いがなくなっています。ニュースで爆弾が落ちる映像や、苦しんでいる子供たちを見ると、胸がいたくなります。どうして人は、同じ人間なのに傷つけ合っているのだらうと思います。

ミサの中で、神父様が「主の平和がいつもみなさんとともに」と言うとき私たちがそれに応えて、「またあなたとともに」と言い、その後隣の人などと会釈をする時間があります。これは「主の平和」と心の中で伝え合う時間だと思っています。この言葉を理解して会釈を行うことで、より深く平和について考えられるようになりました。人の悪口を言わないこと。困ってい

優秀賞

平和実行委員会を通して

香焼教会 中学3年 マリア 山口陽子

私の住む長崎市香焼町には、福岡俘虜収容所第二分所犠牲者追悼碑があります。ここは、第二次世界大戦の時代に捕虜となった外国人が労働を強いられ、多くの命が失われた場所です。私たちが普段生活している町のすぐそばに、そのような歴史が眠っていることを知った時、大きな衝撃を受けました。

私は、平和実行委員として、毎年行われているこの追悼碑の清掃や活動や式典に参加しました。清掃では落ち葉を拾い石碑を磨きます。単純な作業ですがそこには「二度と同じ悲しみを繰り返さないでほしい」という願いが込められていて、私を見つけたら助けること。そういう小さな行動が積み重なれば、きっと大きな平和につながると思います。教会では、戦争で亡くなった人たちのために祈る時間があります。そのとき私は「もう二度とこのようなことが起こりませんように」と心の中で言います。祈りには不思議な力があります。誰かの幸せを願う気持ちは、言葉にしなくてもきっと届くと思います。

特別賞

アンジェラスのかね

深堀教会 中学2年 ミカエル 永瀬榛

「1945年のクリスマスながさきアンジェラスのかね」を家族みんなで読みました。鐘を掘り出すシーンを小さい時、朝ドラを見て感動したという記憶と、永井博士の孫の永井徳三郎さんの講話を小学生の時に聞いた記憶がよみがえりました。

講話の内容は、永井博士の生涯と、そこから伝わる「如己愛人(己のごとく人を愛せよ)」の平和メッセージ、そして、被爆の悲惨さと平和の願いについてです。この講話や朝ドラで登場しなかった「かやの」の人生をこの絵本で知りました。戦争中でありながら「かやの」の家は、笑顔が

う人が、悲しみを共有し、共に祈ることで心が通じ合える。その瞬間、「平和とは国を超えて分かち合えることなのだ」と気づきました。もし戦争の時代であったなら、きっと敵とみなされ理解し合うことは難しかったでしょう。しかし、平和な今だからこそ、国境を越えた交流が可能なのです。

私は普段、友達と笑い合い、勉強し、部活動に全身全霊を打ち込み、家族と食卓を囲む、そんな当たり前な生活を毎日過ごしています。しかし、この「当たり前」は平和の上で成り立っているのです。空襲の心配もなく、自由に自分の意見を言える今の環境は、戦争のない社会だからこそ守られているのです。もし平和でなければ、学校にも通えず、今のうちに部活動に真剣に取り組むことさえできないと思います。

核なき世界基金

被爆地からのチャレンジ
みんなで
いのちと地球を守ろう！
<https://nuclear-free.net/>

ています。そう考えると、原爆で亡くなった人の子ども、孫になるはずだった人たちの、人生も明るい未来も奪っていることになりました。逆にケガをした、ひいおばあちゃんが生きていてくれたおかげで、おじいちゃんが生まれ、お父さんが生まれ、そして僕たちが生まれてこれたことを忘れず、今ある平和な日常に感謝し、一瞬一瞬を大切に生きようと思います。僕たちがこうして笑顔で過ごせるのは、多くの犠牲の上に成り立っていることを忘れてはいけません。

僕のかねは「かやの」のお母さんと同じように被爆したもので、僕は被爆4世です。僕のおじいちゃん、お父さんやおばあさんたちは、この原爆によって亡くなりました。もし、この原爆が落とされていなかったら、僕には親戚がもったいなかったと思います。

ゆるすということは難しいし、苦しいけど、そこからしか平和な未来は作れない。ゆるし合うことで、報復の連鎖は断ち切れます。長崎で起きたアンジェラスの鐘の出来事を、世界中の人たちは見習い、平和な世界を作っていけたらと思います。

カトリックとプロテスタントが共に
長崎キリスト教一致礼拝

説教を担当した竹谷誠師(長崎教区エキュメニズム・諸宗教委員会)は、アメリカ留学時にお世話になっていた聖アウグスチノ修道会の近くにあった黒人主体のカトリック教会で葬儀に参加した経験を交えて語った。

竹谷師は当時、葬儀の終わりにアメリカ民謡の『聖者の行進』を聴いて非常に驚き、黒人の方々の悲哀の歴史とたくましさを感じたという。またその際、自身が長崎県出身であることから原爆について謝られたこと、さらにプロテスタントの信徒の方々から長崎の信徒発見のことを聞かれたこと、そこからカトリック、プロテスタントの枠をこえた一致を感じたことに触れ、次のように続けた。

キリスト教一致祈禱週間の最終日にあたる1月25日(日)14時から、長崎市片淵にある長崎バプテスト教会で「長崎キリスト教一致礼拝」が行われた。礼拝は、浅場知毅師(日本基督教団古町教会)の主司式、瀬戸高志師(カトリック愛宕教会)の共同司式のもと、カトリックとプロテスタントの司祭、牧師、信徒ら約80人が参加し、ささげられた。

の祈りと黙想は、アルメニアのプロテスタント福音派とカトリック教会の兄弟姉妹からその草案が作られました。アルメニアは約110年前に迫害の歴史がありました。その兄弟姉妹が今回のテーマに「一致」を選んだことは重要です。恐らくロシア・ウクライナ戦争をはじめ、多くの地域で紛争や悲劇が起きていること、またそれによって社会の底辺に追いやりられている人々を憂いて、宗教界から一致を提唱しているのだと思います。

私たちは神様から
抱きしめてもらっている

各地で堅信式

下五島地区合同堅信式が1月18日(日)、福江教会で中村倫明大司教の司



式によって執り行われ、福江教会11人、水ノ浦教会1人、三井楽教会1人、貝津教会2人の計15人が堅信の秘跡のお恵みを受けた。

長崎北地区の4教会

1月25日(日)、植松教会において中村倫明大司教の司式のもと4教会合同の堅信式が行われ、合わせて22人(植松12人、水主町1人、東長崎6人、諫早3人)が堅信の秘跡を受け、信徒としての「天の仲間入り」をした。式中の塗油の前には、

青年スポーツ大会

1月11日(日)、教区青少年委員会の新年行事として、司祭団と青年たちとの交流を目的とする「青年スポーツ大会」が、大司教館の体育館で行われた。当初の参加申し込みは司祭、シスター、神学生を含め約40人の予定だったが、当日の悪天候のため27人が参加。3チームに分かれ、ソフトバレーボールを楽しんだ。夜に



司祭団マラソン大会

1月27日(火)やや冷たい曇り空の中、五島市で恒例の司祭団マラソン大会が行われた。参加者は合計21人。「練習もせずよく参加しましたね。歓迎します」との下五島地区長・中田輝次師(福江教会)のあいさつに苦笑しながら、洪燦基新司祭の選手宣誓を皆で聞き、それぞれ、堂崎教会から福江教会までのマラソンの部、同区間を駅伝でつなぐ部、浦頭教会からのウォーキングの部に分かれて競い合った。結果は次の通り。



選手が一斉にスタート！



【マラソンの部】
1位 川原昭如師(曾根)
2位 下原和希師(仲知)
3位 宮原大地師(土井ノ浦)
【駅伝の部】
1位 長崎南地区(ダニエル金桐旭師、山内啓輔師、アウグスチン・トゥ師)



合同の祝賀会が催され、植松教会主任の福島光明師によるギター伴奏に合わせ、教会学校の子どもたち、歌のプレゼントもあり、皆が喜びを分かち合った。

各教会でも

今年に入ってから、各小教区においても中村倫明大司教の司式により堅信式が行われた。1月11日(日)浦上教会で中学生17人、2月1日(日)本原教会で中学生3人、城山教会で2月8日(日)中学生1人、高校生1人、大人2人がそれぞれ堅信の秘跡を受けた。

感謝

一 寄付

長崎大司教区

匿名様(水主町教会)

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

マリア
高野ヒロエさん
(高野治師の母)

1月5日、脳出血のため長崎市のなでしこ荘で逝去。95歳。1930年3月11日生まれ。大浦教会所属。子息である高野師は説教の中で、「神学生の母、司祭の母として苦勞ばかりかけ続けてきたが、いつも私の身を案じてくれ、陰ながら祈りをもつて見守ってくれた、優しい温かい母でした。手作りの皿うどんといなり寿司は、母の忘れられない最高のごちそうでした。司祭として母を天国へと見送ることができたこと、最後の親孝行ができたことをしあわせに思います」と語った。通夜は1月7日、葬儀ミサ・告別式は8日、小ヶ倉教会で執り行われた。

マリア
竹村笑美子修道女
(お告げのマリア修道会)

1月6日逝去。91歳。西海市生まれ。1968年初誓願、75年終生誓願。生涯の多くを保育士としてささげ、太田尾保育園の草創期を支えた。

カタリナ

大窪春美修道女
(お告げのマリア修道会)

1月21日逝去。104歳。五島市生まれ。1962年初誓願、66年終生誓願。看護婦として働いていたシスターは、主任司祭の勧めで40歳で入会した。一度だけ平戸市の保育所で働いたが、その生涯のほとん

カリス通信
カトリック幼稚園・保育園児傷害補償制度のご紹介

カリスでは「幼稚園」「保育園」「認定こども園」を運営されている各施設向けに、「カトリック幼稚園・保育園児傷害補償制度」をご案内しております。園の賠償責任に関する補償と、保育中の園児のおケガに対する補償をご提供します。

補償内容1: 園の損害賠償に関する補償

下記のような事故で、園が法律上の損害賠償責任を負うことにより被る損害を補償します。

- ・施設の欠陥や管理不十分および業務遂行による事故
- ・給食による食中毒など園が提供したものに起因する事故
- ・預かった財物の損壊、紛失、など

補償内容2: 保育中の園児のケガに関する補償

園の管理下における偶然な事故による園児のケガ、熱中症による入院、通院を補償します。万一、死亡や後遺障害となった場合も対象です。「加入タイプ」は3通りご用意しています。0157などの特定感染症を対象とするタイプも選択いただけます。ご希望により教職員も補償の対象にすることができます。園を運営されている各施設の皆様、ぜひこの機会に加入をご検討ください。

※本ご案内は「施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・受託者賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険」についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である団体の代表の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明の点がありましたらカリスまでお問い合わせください。

私たちが、大澤阿紀子 大西 晃 毛利玲子
お守りします。服部秀昭 川口 薫神父(顧問)



カトリック共済システム 有限会社カリス 連絡先 ☎ 0120-77-0033

カトリック共済システム 検索 25TC-003319 (2025年10月作成) 引受保険会社: 東京海上日動火災保険株式会社

リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

タンスの中身は入れたまま責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送も致します)

24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00

水浦運送

シモン 水浦 幹雄
長崎市上野町12-3
TEL (095) 847-7151
携帯 090-7923-9005

貨物保険有り
・一般引越
・小荷物
・遠距離
・荒ゴミ捨て
・学生引越

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268